

産業遺産である土塁・防風林のこと、ご存知ですか？

平成27年地域政策研究センター（教員提案型・後期）採択課題

課題名：滝沢市巣子地区における防風林樹木のカルテ化および産業遺産としての再評価
研究代表者：総合政策学部 准教授 島田直明
研究メンバー：平塚明、渋谷晃太郎（総合政策学部）
キーワード：滝沢市巣子地区、土塁、防風林、産業遺産、樹木カルテ化

▼研究の背景・目標

滝沢市巣子地区周辺には、土塁および防風林が多く見られる。これらは、明治時代に畜産系研究機関が開設され、それにともない築造・植林されたものである。岩手県の畜産業の産業近代化過程を物語る施設であり、地域の景観を特徴づけている。しかし、近年伐採により防風林が減少し、また産業遺産としての認知度は低い。

▼調査方法

①岩手県立大学の防風林のカルテ化

岩手県立大学が所有するカラマツなどの防風林について、以下の調査項目を調査した。1)樹種、2)樹高、3)胸高直径、4)傾き、5)緯度経度。

②巣子地区の土塁・防風林の分布状況

巣子地区の明治時代に作られた土塁や防風林の分布状況を、明治末の旧版地形図から抽出し、これを踏査した。

▼結果・考察

①岩手県立大学の防風林のカルテ化

・計837本の樹木についてカルテを作成することができた(図1、2)。

・防風林の主体をなしているカラマツは樹高22m以上の個体が多く、20m以下の個体は少ない。更新が順調に行われていないことが読み取れる。

②土塁・防風林の分布

・明治末の旧版地形図から抽出された土塁は約68kmであった。

・調査ができた約48kmのうち約22kmが残存していた。主に消失したのは、国道4号、282号沿いであった(図3)。

▼おわりに

①岩手県立大学の防風林のカルテ化については、並木状になっている防風林はほぼ調査が終了した。さらに構内東側に生育しているものについても、今後調査を行い、カルテ化することを予定している。

②巣子地区周辺の土塁・防風林の分布については、調査を終えることができた。

③平成29年度は、残存土塁状に生育している植物についての調査を始めた。これらの結果を含め、産業遺産としての価値付けを行い、公表していく予定である。



図1 岩手県立大学構内防風林位置図

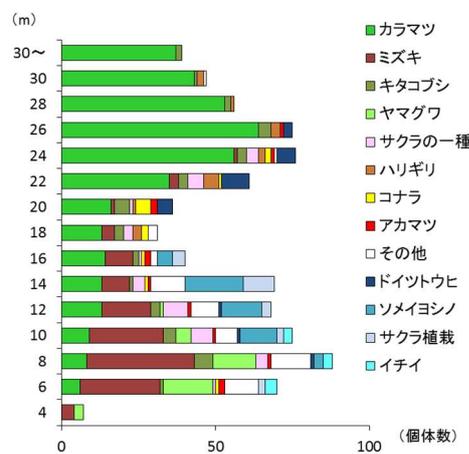


図2 大学構内防風林の樹高階別個体数

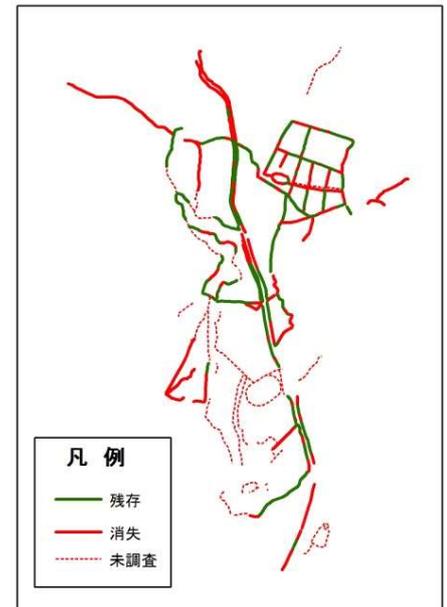


図3 巣子地区土塁 分布図